

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2370400869		
法人名	株式会社エイム		
事業所名	グループホーム清里・2階		
所在地	名古屋市区砂原町 418番地		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2370400869-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2370400869-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号
訪問調査日	令和4年1月20日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

一人ひとりの入居者の微妙な表情や変化に気づくことができるよう、毎日の生活を大切にしています。また、家庭的な雰囲気の中で自分らしく過ごしていただき ホームが居心地の良い場所として提供出来るよう努力しています。  
今年もコロナで大変な年でしたが 施設の前には公園があり、春にはお花見・秋には紅葉を楽しむ事ができ、入居者の方には散歩で季節を感じて頂くことができます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホーム独自の取り組みとして、担当職員で分担しながら、ホームの敷地内に設けられている畑に利用者と一緒に手入れが行われており、現状の外出が困難な状況の中で利用者が日常的にホームの外に出ることができる機会がつけられている。外出支援については、日常的に近隣を散歩をする取り組みも行われており、日常生活の中で閉塞感を感じないような配慮が行われている。職員配置についても、ゆとりのある人数の配置が行われていることで、職員が利用者一人ひとりの意向等に寄り添った支援の実現にもつなげると共に、職員一人ひとりの負担軽減を図り、チームでの支援の実現にもつなげている。また、利用者の中には、身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、職員間で支援内容の検討を重ねながら、ホームで最期を迎えることができるような支援も行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・フロア、玄関、スタッフルーム等に掲示し日頃から目に触れるようにしている ・朝の申し送り時、全員で理念を唱和することにより 理念を意識し日々の業務に取り組んでいる	運営法人の基本理念をホームの支援の基本に考えながら、日常的に職員間で理念の内容を振り返る機会をつくっている。また、毎年度の個人目標をつくりホーム内にも掲げており、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・例年は地域のお祭や行事に積極的に参加し近くの保育園との交流が行われているが、今年もコロナの関係で中止となった	感染症問題が続いていることで、地域の行事が中止になる等、地域の方との交流が困難な状況が続いている。ホームでは、日常的にホームの近隣を散歩する機会をつくりながら、近隣の方と挨拶を交わす等、現状で可能な交流が行われている。	地域の方との交流が困難な状況が長期化していることもあるため、今後の状況もみながら、交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・コロナで集まる会議が中止となり、自治会や民生の方に認知症の理解や関わり方を説明する機会がなかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・コロナで会議が中止となったため、利用者の現況や取り組み・行事などを清里便りや報告書にまとめ配布し 意見を聞いていた。	運営推進会議については、書面による実施が続いており、運営状況等を書面にまとめて関係者にホームの現状を報告している。例年、会議を開催する際には、地域の消防団の方の参加も得られており、協力関係につなげている。	書面による会議の実施が長期化しており、関係者との交流が困難になっている。今後の状況をみながら、会議の再開につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	・支援センターや役所の方には清里便りや報告書にまとめ配布し、ホームの様子を伝えた	市担当部署とは、生活保護の方に関する情報交換や市の研修会等への出席等の機会を通じた情報交換等が行われている。また、地域包括支援センターとの交流も行いながら、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・玄関の施錠は夜間のみ、日中は施錠をしてない ・利用者自身に危険が及ぶ場合、どう対応すれば良いかをミーティングで話し合い、拘束しない方法を考えている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者の状況等に合わせた支援が行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討委員会や職員研修が行われており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・勉強会や研修で虐待について学び、考える機会を作るようにしている ・言葉の虐待等意識しないで使ってしまうようなことがないように、スタッフ間で注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・利用者の中には成年後見人制度を活用している方がいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・契約時に口頭による説明を行い、重要事項説明書を用意し補足している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・普段よりご家族が話しやすい関係を築くよう心がけ、面会時に現況を伝え要望があれば伺うようにしている	現状、家族との交流が困難な状況が続いているが、家族からの要望等については、内容にも合わせて管理者やチーフで対応し、ホームの運営に反映している。また、年4回のホーム便りの他にも利用者毎の手紙を作成する取り組みも行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・ミーティングでは意見を言える環境作りを考えている ・普段からスタッフとコミュニケーションを取り、内容によっては毎月予定している本部との管理者会議でスタッフの声を反映している。	毎月のユニット毎の会議や日常的な職員間での情報交換を通じて、管理者が把握した職員からの意見等を運営法人に報告し、業務改善等につなげている。また、管理者による職員面談が行われており、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・勤務時間や個々の勤務形態希望を定期的に確認し スタッフと話が出来るように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・コロナで外部の研修が中止となったため、施設内で月1回の勉強会を設け研修を行った		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・月1回、近隣のグループホームが集まり勉強会や情報交換が行われていたが、本年度は中止となり交流ができなかった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・入居前の様子を把握し、ホームでの生活に早く慣れて頂けるよう心がけている ・日常の会話により要望・希望を聞き出すように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・入居前よりご家族の困っていることや要望を聴き、入居後も常に状況報告や連絡を密にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・入居後は利用者を知る事から始め、ホームでの生活に馴染み安心して生活を送って頂けるよう 連絡帳やミーティングで情報交換をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・ホームの畑で実った野菜と一緒に収穫し、調理にも参加してもらい出来ることを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・面会に来て頂きやすい雰囲気作りを心掛けている ・ご家族の思いも聴き利用者にとってより良い生活が送れるように、時にはご家族にも協力をお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・コロナで直接 馴染みの方に会うことができなかつたため、知人へ手紙を出したり電話での関係が続けられるように支援した	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には、入居前からの関係の方と手紙等を通じて交流する等、現状で可能な支援が行われている。また、感染症対策をお願いしながら、家族と外出している方もあり、現状で可能な交流を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・利用者同士の関係が上手くいくよう、間に入り会話作りの支援をしている ・利用者同士の関わりが上手く出来るようにフロアの席も考慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・この一年他所への住替えは無かったが、ある場合はケアが途切れないように情報を提供している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・センター方式の「心身の情報シート」を全スタッフが入力することで 利用者の思いを汲み取るように努めている ・日々の会話の中からも、利用者の希望や要望を聴きスタッフ間で共有している	ホームでは、職員全員で利用者に関する意向等の把握が行われており、日常的な申し送り等を通じて職員間での共有につなげている。また、毎月のカンファレンスを実施しており、利用者や家族の意向等を検討し、日常の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・入居前にご家族に情報シートを記入して頂き ホームの生活に役立てるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・定期的に全スタッフが情報シートを作成し、心身の変化を共有しミーティングで話し合っている ・利用者の出来る能力を活かし、出来ない部分を手伝うように意識している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・スタッフ全員から集めた情報を元にケアプランを作成している ・利用者に変化があれば、プランの見直しもする	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、日常的にも1日1ページの記録用紙を活用しながらチェックを行いながら、3か月でのモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・個別の介護記録に日々の様子を記入し、スタッフが個別に利用者に関わったことを記入する努力をしている ・ケアマネが記録を確認しプランに活かせるよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・家族に代わり日頃の様子がわかるスタッフや看護師が病院受診の付き添いをし、柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・以前は近くのコンビニを活用し馴染みの店になるよう支援していたが、コロナの関係で一緒に行けなかったため、希望をお聞きしてスタッフが買い物に行った		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・入居時にご家族と話し合い、病院を検討。複数の医療機関への付き添い受診も可能にしている。	ホームでは、複数の医療機関との連携が行われており、利用者の健康状態に合わせた医療面での支援が行われている。受診についても状況等に合わせた職員による対応も行われている。また、ホームに看護師が勤務しており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・変化や異常がある時には、24時間管理者・チームに連絡出来るようになっていて 日々の様子は看護師とも情報を共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時は医療機関に対して情報提供書を提供している ・病院関係者と家族との話し合いには施設側も同席し本人にとって一番良い方法を話し合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・終末期の希望は入居時、また状態が変化した時に家族や本人の意向を確認している。 ・施設での最期を希望する利用者がほとんどなので全スタッフが終末期のあり方を共有している	身体状態が重い方も生活を継続しており、利用者の中には、協力医と連携しながらホームで最期を迎えた方もいる。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ねており、次の生活場所への移行も含めた、利用者及び家族の意向の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・急変時の対応についてマニュアルがあり、24時間 医師・管理者より指示を受けることができる ・毎年学区の消防団の協力により救急救命やAEDの使い方等の講習が行われていたが今年も中止となった		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・定期的な避難訓練を実施し、水害の訓練も行われた。 ・備蓄関係の整備、見直しも行った	ホームでは、年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。地域の消防団との協力関係をつくりながら、地域の方との協力関係につなげている。また、ホーム内に水や備蓄品を確保している。	地域の方との交流が困難な状況が長期化していることもあるため、今後の状況もみながら、災害に関する協力関係にもつなげることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・ミーティングや連絡帳で対応や声掛けについて話し合い、独自のセルフチェックも行い注意するよう心掛けている	ホームでは、虐待や身体拘束に関する定期的なチェックシートによる振り返りの機会がつけられており、利用者への対応や言葉遣いに関する意識向上につなげている。また、職員の接遇にもつながる研修を実施し、職員の振り返りや注意喚起も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・傾聴、受容、共感を基本とし利用者の希望や要望に応えられるよう自己決定に努めている ・自己決定が難しい利用者に対しては、表情や仕草で把握するよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・食事、入浴等 なるべく要望を取り入れている ・散歩も一対一で行ない、ゆとりを持って接する支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・定期的に訪問美容を利用し、本人の希望も聞きながら行う ・時々、お化粧品を楽しみの一つとしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・おやつなどは一緒に作って楽しみとしている ・利用者の状態に合わせた食事形態や好みも考慮し出来る範囲で代替えの食事もある	食事については、メニューを職員で考え、ユニット間で調理を行う種類を分担しながら、利用者もできることに参加している。季節に合わせた食事の提供やおやつ作りの取り組みも行われている。また、すり鉢を活用した食事形態を工夫する取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・水分、食事量のチェックを毎食し 摂取量を把握している ・水分が足りない方には、好みの飲み物を提供したり 夜間のトイレ時に飲用して頂いたりする		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・スタッフが声掛けし、口腔ケアを促している ・訪問歯科や歯科衛生士が毎週入り、専門の目からのケアをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェック表に記入することにより、一人ひとりの排泄パターンを把握している</li> <li>・なるべくトイレで排泄出来るように支援をしている</li> </ul>	利用者全員の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報を共有しており、利用者一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考え、医療面での連携も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩や室内での体操を行い身体を楽しんで動かすように支援している</li> <li>・排便状況を把握し、繊維の多い食材を取り入れたり、場合によっては薬の服用も行う</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週3回の入浴は、利用者の状態に合わせて柔軟な対応し 入れない方は、足浴で対応もする</li> <li>・季節に合わせたゆずや菖蒲湯で入浴に変化をつけている</li> <li>・入浴剤を入れ楽しみの一つとしている</li> </ul>	利用者が週3回の入浴ができるように支援が行われており、時間も午前と午後を実施しており、利用者の状況等に配慮した支援も行われている。また、利用者の身体状態に合わせた職員2名での支援や季節等に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中の過ごし方も安眠に繋がると考え、安心した生活を送れるよう支援している</li> <li>・ベッドが落ち着かない方には、簡易畳への変更をしている</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の記録に処方箋を添付し直ぐに分かるようにしている</li> <li>・ご本人の状態を把握し、お薬を減らす努力をしている</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗濯物、お絞り干し等 出来ることは役割としてお願いしている</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナで遠出ができなかったが、近くの公園には散歩に行き気分転換を計った</li> </ul>	現状、利用者の外出が困難になっているが、ホームでは、利用者が日常的にホームの外に出ることができるように、近隣の散歩やホームの畑に出る機会をつくっている。また、初詣や花見等、現状で可能な範囲での外出支援が行われている。	利用者がホームの外に出る機会をつくる取り組みが行われているが、以前のような外出行事が困難な状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、外出行事が再開されていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・基本は施設が預かっているが、お金の訴えが多い方はご家族と相談し所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・電話の希望があればいつでもかけられ、本人出来ない場合は、代理で話をするがある。 ・手紙のやり取りも行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・季節に合わせた飾り付けを所々にし、和室やソファでくつろげる空間もある	ホーム内は広めの空間がつけられてあり、採光の良い環境の中で、利用者がゆったりと過ごすことができるような生活環境がつけられている。また、リビングの壁面には、利用者の作品や季節等に合わせた飾りを行う等、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・フロアでは気の合った方と過ごせる事もでき、居室や廊下奥では一人になれる空間もある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・利用者の使い慣れたものや思い出深い物を各自部屋に置いている ・家族の写真を飾っている	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室内に収納スペースが確保されていることで、車椅子の方も居室内を広く活用することができる生活環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・室内に放尿のある方には部屋にポータブルを置き様子を見たり、転倒のリスクの高い方にはベット近くにソファを置きなるべく自分でできる事の支援をしている		